

研究学園小学校における不祥事の根絶に向けた取組

つくば市立研究学園小学校長 岡田 太郎

これまで、学校職員のコンプライアンス遵守については、様々な取り組みを実施してきました。しかしながら、近年、県内学校において教職員の不祥事が発生しております。児童の成長を支援する立場にある教職員がこのような不祥事を起こしてしまうことは児童、保護者、地域の皆様の信頼を大きく損なう行為であり、絶対にあってはなりません。

このため、本校教職員は、不祥事の根絶に向けて、次のように取り組めます。

1 本校教職員行動規範

- (1) 私たちは、心理的安全性が担保された職場風土を築き、互いに相談、尊敬し合える職場環境を作り、お互いに伝えるべきことを伝え、高め合う教職員であり続けます。
- (2) 私たちは、学校全体で子どもたちを守り、成長を支えています。
- (3) 私たちは、子どもたちへの指導等は担任一人だけに頼ることなく、積極的にチームで対応し、子どもたちと適正な距離感を保ちながら成長を支えます。
- (4) 私たちは、子どもたちとより良い関係を築いていくために、子どもたちの人権を尊重し、教育者としての自覚を常に持ちながら子どもたちとかわります。

2 不祥事根絶に向けた行動計画

(1) 教職員の規範意識の確立

- 行動規範を徹底する。
- 不祥事につながる事が予想されるヒヤリ・ハット事案を教職員間で共有する。
- 教職員研修の方法や内容等を定期的にブラッシュアップし、研修効果が実感できるようにする。
- 子どもに対する言動や個人情報の取扱いについて、定期的に振り返りを行う。
- 私生活に関する不祥事についての研修も随時行う。

(2) 学校組織としての不祥事防止体制の確立

- 取組の目的を明確化させ、学校事、自分事ととらえられるようにする。
- 企画会、運営委員会、その他専門委員会との連携、機能化を図る。
- 研修計画に基づき、計画的に研修を実施する。
- 教職員一人一人がリーダーシップをもち、組織として相互に補完する。
- すべての教職員が日頃から「5S」(整理、整頓、清掃、清潔、習慣)を意識し、能率よく業務を行うことができるようにする。

(3) 相談体制の充実

- 担任、養護教諭、担当職員、管理職が連携して、子ども、保護者に対して継続的に相談窓口等の周知を行う。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、様々な職員とともにチーム学校としての相談体制を確立する。
- 各学級が子どもたちにとっての安心、安全な居場所となるように、学級活動、道徳の時間を中心に温かい学級づくりを行う。
- 管理職やミドルリーダーが中心となり、風通しの良い同僚性が高い職場環境を整える。
- 教職員のメンタルヘルス研修を実施する。